

沖縄県における令和4年産さとうきびの生産状況について

沖縄県 農林水産部 糖業農産課

【要約】

沖縄県の令和4年産さとうきびは、生産量73万7439トン（前年比90.4%）で、平年よりも少ない不作となった。収穫面積は1万3679ヘクタール（同99.2%）で前年とほぼ同じで、台風などの大きな災害はほとんど無かったものの、気象条件に恵まれなかったことにより、10アール当たりの単収は豊作であった前年を大きく下回る5391キログラム（同91.2%）となったことから生産量は平年より少なくなった。また、平均甘しや糖度は13.8度（前年15.2度、平年14.4度）と品質的にも低い年となった。

1. さとうきびの位置付け

さとうきび栽培経営体は県農業経営体の約6割、さとうきび栽培面積は経営耕地総面積の約5割と、さとうきびは農業産出額の約2割を占める基幹作物であり、特に多くの離島を抱える本県において製糖業とともに地域経済、社会を支える重要な作物となっている。また、さとうきびは他作物に比べて比較的台風や干ばつに強く、離島地域においては代替の利かない作物である。

沖縄県では、国の「さとうきび増産プロジェクト基本方針」に基づき、平成18年に策定した各島別および県段階における生産目標や取り組み方向を示した「さとうきび増産プロジェクト計画」を27年に改定した。さらに、令和4年度から新たにスタートした「沖縄振興特別措置法」に基づき、「新・沖

縄21世紀ビジョン基本計画」を4年5月に策定し、この法律と計画によって生産基盤の整備、安定生産技術の開発および普及、機械化や地力増強、病害虫防除対策の推進、生産法人など担い手の育成、優良品種の開発・普及など総合的な施策展開による生産振興を推進している。

2. 令和4年産さとうきびの生育概況

(1) 沖縄地域（沖縄本島、伊平屋島、伊是名島、伊江島、粟国島、久米島、南大東島、北大東島）

株出し栽培の生育初期である4月は少雨傾向で、南大東島では平年の20%しか降雨がなかった。その後、梅雨に入ると5月の降水量は平年比で2倍以

(参考) 沖縄県のさとうきび栽培経営体数など（令和2年）

農業経営体数	さとうきび栽培経営体数	さとうきび栽培経営体割合 (%)	経営耕地総面積 (ha)	さとうきび栽培面積 (ha)	栽培面積割合 (%)
11,310	6,233	55.1	19,475	10,319	53.0

資料：2020年農林業センサス

上となり、日照時間は50%程度と少なかった。8月31日には台風11号が大東地域に接近し、折損や葉片裂傷などの被害が見られた。登熟期にあたる11月は平均気温が各地域で平年より1.1度以上高くなり、また、特に本島地域と久米島では平年の2倍以上の降水量となった。この時期の多雨は糖度低下要因となるが降水が連続していなかったため、糖度低下への影響は限定的であった。製糖期になり、南大東島では2月の降水量が平年の29%と干ばつ傾向であったものの、収穫作業は順調に進んだ。

(2) 宮古地域(宮古島、伊良部島、多良間島) および八重山地域(石垣島、小浜島、西表島、波照間島、与那国島)

2月と5月は降水量が多く、2月は平年の1.8倍以上、5月は3倍以上であった。それに伴い、生産量の多かった伊良部島や石垣島で前年度の収穫作業の遅れがあった。また、7～8月は干ばつ傾向で、八重山地域は8月の降水量が平年の30%未満となり、生育が緩慢になった。8～9月に台風11号、12号が連続して襲来し、石垣島で被害が見られた。10～12月は平年より高温多雨で、宮古島では11月

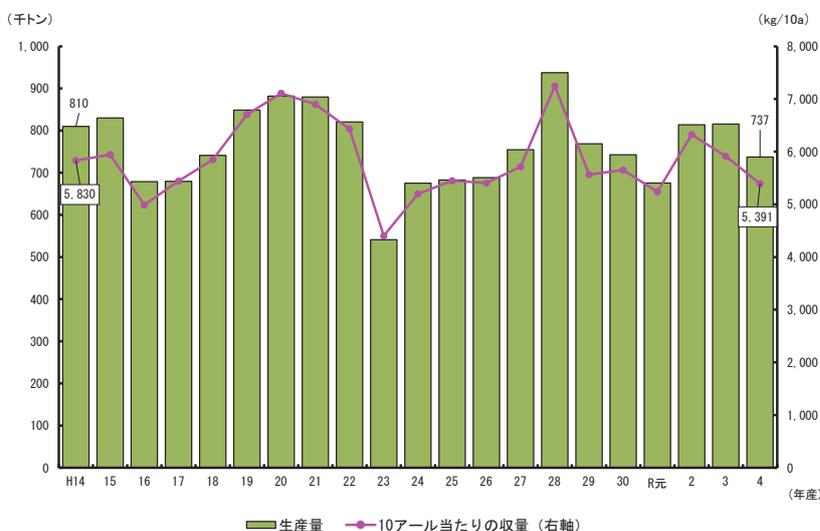
は平年と比較して平均気温が1.1度高く、降水量は5.3倍であった。それにより成熟が遅れ、糖度が低くなったものと考えられる。

3. 令和4年産さとうきびの生産状況

令和4年産さとうきびの収穫面積は1万3679ヘクタールとなり、令和3年産と比較して112ヘクタール減少の前年並みとなった(前年比99.2%)。生産量は7万7986トン減少し73万7439トン(同90.4%)、10アール当たり収量は5391キログラムと、前年に比較して10アール当たり522キログラム減少(同91.2%)した(図1、表1～3)。

沖縄地域では収穫面積(前年比24ヘクタール増)、10アール当たり収量(同35キログラム増)ともに前年並みであったことから、生産量は前年並みであった。宮古地域は収穫面積が48ヘクタール増加とほぼ前年並みであったが、10アール当たり収量が574キログラム減少したため、生産量は減少した。八重山地域では収穫面積が184ヘクタール減少し、10アール当たり収量も前年より1958キログラム

図1 さとうきびの生産量と10アール当たりの収量の推移



資料：沖縄県調べ

表1 地域別生産実績（令和4年産）

地域	収穫面積 (ha)	生産量 (t)	10a当たり収量	
			(kg/10a)	平年比 (%)
沖縄	5,766	317,587	5,508	99.4
宮古	5,975	331,620	5,550	90.8
八重山	1,938	88,232	4,552	73.1
県計	13,679	737,439	5,391	92.4

資料：沖縄県調べ

注1：平年は、当年を含まない過去7年から最大値と最小値を除いた平均。

注2：小数点以下四捨五入のため、計と内訳が一致しない場合がある。

以下、各表も同じ。

表2 生産量の比較

地域	R4 ① (千t)	R3 ② (千t)	増減 ①-② (千t)	前年比 ①/② (%)	H元年産 (千t)
沖縄	318	314	3	101.1	1,086
宮古	332	363	▲ 31	91.4	507
八重山	88	138	▲ 50	63.9	183
県計	737	815	▲ 78	90.4	1,779

資料：沖縄県調べ

表3 10アール当たり収量の比較

地域	R4	R3	増減①-② (kg/10a)	7中5平均 (H27-R3)		前年比 ①/② (%)
	① (kg/10a)	② (kg/10a)		③ (kg/10a)	①/③ (%)	
沖縄	5,508	5,473	35	5,544	99.4	100.6
宮古	5,550	6,124	▲ 574	6,113	90.8	90.6
八重山	4,552	6,510	▲ 1,958	6,226	73.1	69.9
県計	5,391	5,913	▲ 522	5,833	92.4	91.2

資料：沖縄県調べ

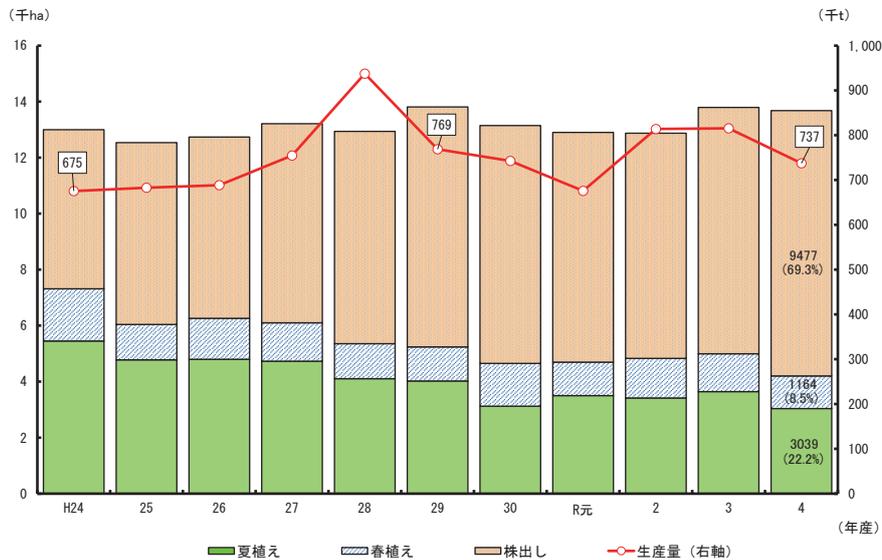
減少したことから、生産量は大きく減少した。

なお、各地域別生産量は、沖縄地域（周辺離島を含む）が全体の43.1%、宮古地域が45.0%、八重山地域が12.0%となっている。

作型別では、夏植え栽培が前年と比較して604ヘクタール減少し3039ヘクタール（全収穫面積に

占める割合22.2%）、春植え栽培が189ヘクタール減少し1164ヘクタール（同8.5%）、株出し栽培が680ヘクタール増加し9477ヘクタール（同69.3%）となった（図2）。新植栽培（夏植え・春植え）よりもコストが抑えられることから、株出し栽培が増加傾向となっている。

図2 作型別収穫面積とさとうきび生産量の推移



資料：沖縄県調べ

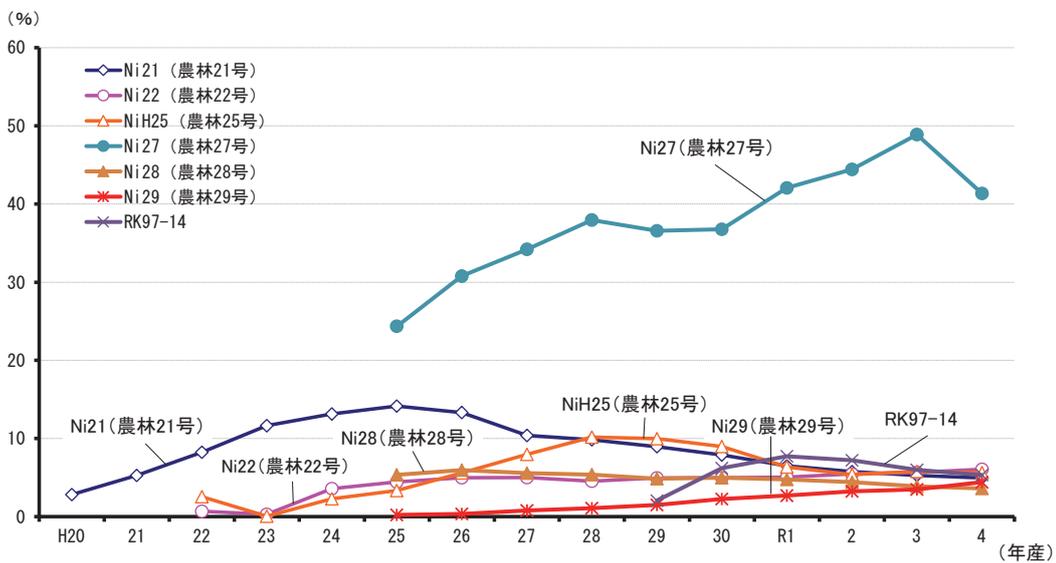
品種構成は、Ni27（農林27号）が全収穫面積の41.4%を占め、次いでNi22（農林22号）が6.1%、NiH25（農林25号）が5.6%、RK97-14が5.3%、Ni21（農林21号）が4.9%、Ni29（農林29号）が4.4%、Ni28（農林28号）が3.6%となった（図3）。Ni27（農林27号）は茎のそろいや収量性がよく、株出し性や糖度についても安定しており、栽培性に大きな欠点がなくバランスの取れた品種であることから、近年生産が拡大している。しかしながら、早

期の台風では被害が大きくなることや株出し栽培で黒穂病の発生が見られることから、一部産地ではNi27（農林27号）の品種割合を抑制して危険分散を図る動きがみられる。

（1）沖縄地域

収穫面積は5766ヘクタールで令和3年産に対して24ヘクタール増加し、10アール当たり収量は5508キログラム（前年比100.6%）と前年並み、生産量は

図3 主なさとうきび品種の推移（収穫面積構成比）



資料：沖縄県調べ

（参考）沖縄県のさとうきびの主な奨励品種

品種名	農林番号	採用年度	特徴
Ni21	農林21号	H18	風折抵抗性に優れ、潮風害後の糖度上昇阻害が軽微、収穫期の糖度が高い。
Ni22	農林22号	H20	発芽・萌芽性に優れ、茎数型で株出し多収。
NiH25	農林25号	H20	初期伸長性に優れ、茎重型で干ばつに強い。さび病、葉焼病に強い。
Ni27	農林27号	H22	中太茎で茎のそろいが良く多収。脱葉性が良好。葉焼病などの葉の病害に強い。
Ni28	農林28号	H22	株出し栽培で多収。黒穂病に強く、耐倒伏性、風折抵抗性が強い。
Ni29	農林29号	H22	早期高糖性品種。脱葉性良好で耐倒伏性に優れる。
RK97-14	—	H28	茎が長く太いため、1茎重が重い。発芽がよく、生育初期から茎伸長に優れる。

31万7587トン（同101.1%）で3316トン増加した。

作型別では、夏植え栽培は641ヘクタールで前年から80ヘクタール増加し、春植え栽培は694ヘクタールで同120ヘクタール減少、収穫面積の約8割を占める株出し栽培は4431ヘクタールで同64ヘクタールの増加となった。春植え栽培の収穫面積はやや減少したものの、夏植えと株出し栽培の収穫面積が増加したため全体的な収穫面積は前年並みであった。10アール当たり収量は春植え栽培でやや減少したものの、夏植え栽培で増加したことにより、全体的には前年並みであった。

品種構成は、Ni27（農林27号）が33.5%、Ni29（農林29号）が9.9%、RK97-14が7.3%、Ni28（農林28号）が6.9%を占めている。

（2）宮古地域

収穫面積は5975ヘクタールで令和3年産に対して48ヘクタール増加したが、10アール当たり収量は5550キログラム（前年比90.6%）となったため、生産量は33万1620トン（同91.4%）と3万1386トン減少した。

作型別では夏植え栽培の収穫面積は1786ヘクタールで前年より518ヘクタール減少し、春植え栽培は315ヘクタールで同6ヘクタール減少、近年増加傾向にある株出し栽培では3874ヘクタールで同571ヘクタール増加した。

品種構成は、Ni27（農林27号）44.4%と最も多く、次いでNi21（農林21号）が7.5%となっている。

（3）八重山地域

収穫面積は1938ヘクタールで令和3年産に対して184ヘクタール減少し、10アール当たり収量は4552キログラム（前年比69.9%）、生産量は8万8232トン（同63.9%）で4万9916トン減少した。

作型別では、夏植え栽培で166ヘクタール、春植え栽培で63ヘクタール減少した。10アール当た

り収量が全作型で前年を下回ったため、生産量は全作型で前年を下回った。

品種構成は、Ni27（農林27号）が48.4%と最も多く、次いでNi22（農林22号）が16.5%、NiH25（農林25号）が16.0%となっている。

4. ハーベスタによる収穫状況

さとうきびの労働時間の大半を占める収穫作業の省力化を図るため、これまで国庫補助事業などを活用したハーベスタの導入を推進してきた。さらに、県では既存のハーベスタの導入に加え、脱葉施設などの導入を進め、地域に応じた収穫体系を含む機械化一貫作業体系の確立を推進している。

令和4年産では、県内全域において大型、中型、小型の各機種合計388台のハーベスタが稼働し、ハーベスタ、刈り倒し機および脱葉機を利用した機械収穫率は収穫面積の86.2%（前年収穫率84.6%）となっている。

5. 製糖工場の操業状況

沖縄県の製糖工場は、分みつ糖工場が8社9工場（8島）、含みつ糖工場が4社8工場（8島）操業している（表4）。

分みつ糖工場の令和4年産原料処理量は、3年産より5万4247トン減少し67万8368トン（前年比92.6%）となり、買入糖度は、前年より低い13.7度となった。

含みつ糖工場の4年産原料処理量は、3年産より2万3739トン減少し5万9072トン（同71.3%）となった。

表4 製糖工場ごとの操業実績

島名	会社/工場名		操業期間	原料処理実績							
			R4年産	R4年産				増減 (R4-R3、R4/R3)			
			操業開始 操業終了	原料処理量 (t)	歩留 (%)	産糖量 (t)	買入糖度 (度)	原料処理量 上段: t 下段: %	歩留 (ポイント)	産糖量 上段: t 下段: %	買入糖度 (度)
分 み つ 糖	沖縄本島	ゆがふ製糖(株) うるま	12月21日 3月20日	117,854	12.1	14,216	14.0	▲3,968 96.7	0.0	▲422 97	▲1.0
	伊是名島	JAおきなわ 伊是名	12月6日 3月8日	21,938	10.9	2,391	13.3	▲3,299 86.9	▲1.0	▲602 80	▲1.4
	久米島	久米島製糖(株) 久米島	1月6日 4月14日	53,391	11.9	6,358	14.1	2,818 105.6	▲0.4	158 103	▲1.2
	南大東島	大東糖業(株) 南大東	12月19日 3月28日	86,750	10.7	9,245	13.4	4,781 105.8	▲0.8	▲147 98	▲2.0
	北大東島	北大東製糖(株) 北大東	12月26日 3月27日	23,441	10.8	2,525	13.8	265 101.1	0.1	61 102	▲0.9
	宮古島	沖縄製糖(株) 下地	12月15日 4月5日	133,954	11.6	15,517	13.4	▲12,836 91.3	▲0.9	▲2,860 84	▲2.0
		宮古製糖(株) 城辺	12月9日 3月21日	115,531	11.3	13,002	14.0	▲2,817 97.6	▲1.4	▲1,969 87	▲1.8
	伊良部島	宮古製糖(株) 伊良部	12月8日 5月19日	60,962	10.6	6,485	14.4	▲4,208 93.5	0.1	▲372 95	▲0.8
	石垣島	石垣島製糖(株) 石垣	12月6日 4月14日	64,546	10.3	6,634	13.1	▲34,983 64.9	▲0.8	▲4,357 60	▲1.1
	分みつ糖合計			12月6日 5月19日	678,368	11.3	76,373	13.7	▲54,247 92.6	▲0.6	▲10,508 88
含 み つ 糖	伊平屋島	JAおきなわ 伊平屋	12月7日 4月10日	5,203	11.0	573	-	921 121.5	▲0.5	80 116	-
	伊江島	JAおきなわ 伊江	12月1日 4月15日	7,273	11.2	812	-	1,626 128.8	0.5	212 135	-
	粟国島	JAおきなわ 粟国	1月7日 3月16日	1,737	14.5	251	-	172 111.0	2.3	61 132	-
	多良間島	宮古製糖(株) 多良間	12月20日 4月5日	21,173	13.2	2,798	-	▲11,525 64.8	3.6	▲355 89	-
	小浜島	JAおきなわ 小浜	1月10日 3月27日	3,024	9.7	295	-	▲1,832 62.3	2.2	▲69 81	-
	西表島	西表糖業 株式会社	12月3日 4月6日	8,994	12.5	1,121	-	▲5,573 61.7	2.9	▲272 80	-
	波照間島	波照間製糖 株式会社	12月6日 3月11日	8,144	14.1	1,149	-	▲4,988 62.0	3.2	▲288 80	-
	与那国島	JAおきなわ 与那国	12月8日 3月8日	3,523	8.9	313	-	▲2,540 58.1	▲0.4	▲250 56	-
	含みつ糖合計			12月1日 4月15日	59,072	12.4	7,311	-	▲23,739 71.3	2.5	▲881 89

資料：沖縄県調べ

おわりに

沖縄県では令和7年産を目標とする「さとうきび増産プロジェクト」および令和13年度を目標とする「新・沖縄21世紀ビジョン基本計画」に基づき、各種の生産振興施策・事業を展開している。

4年産さとうきびは、台風などの大きな気象災害は少なかったものの、八重山地域を中心に前年の収穫遅れに加え、初夏の長雨による管理遅れや管理不足があり、10アール当たり収量が大きく減少して県全体としても73万トン台の生産量となった。

さとうきびは比較的気象災害に強い作物ではあるが、本県は台風常襲地域で、気象条件などの年変動も大きいことから、これまで同様の取り組みの継続と強化が必要である。

今後も継続して目標を達成していくため、気象災害と病害虫被害などに対応したセーフティネット（さとうきび増産基金）などを活用することにより、関係機関・団体が一体となって増産への取り組みを強化し、本県さとうきび生産農家と製糖企業の経営の安定化に向けて取り組んでいるところである。